

事業実施報告書

法人名	NPO法人環境教育ネットワークたねのもり
活動名	ノイホーフ南埼玉へようこそ！～自然栽培がつなぐ環境教育の輪～
助成事業の種類	SDGs推進活動助成
	地球分野
事業の目的	
農業人口がますます減少し、地域の耕作放棄地が問題となっている。核家族化が進む背景も相まって、郷土への愛着や地域社会の繋がりが希薄している中で子育て世代やシニア世代の孤立化が顕著になり、社会基盤の不安定さや家庭の教育力の低下を招き、未来を生きる子どもたちが「生きる知恵と力」を会得できず揺らいでしまう。本活動は、拠点とする農場を取り巻く地域のコミュニティ形成と、体験授業・環境教育を通して全世代を対象とした郷土教育の土壌を育むことを目的とする。活動が途切れることのないよう、スタッフの人材育成はもちろん参加者にも主体的に関わってもらう会にすることで意欲的な参加者が提案を出したり企画に携わる・コミュニティを作るなどの活動も活発的に行われていった。また親子参加者も多く、子育ての終わった世代の人々が、地域について今住んでいる住民として、だけではなくこの先を生きる子どもたちの未来のために自分にできることをやる、といったイメージを共有したり、世代を超えた交流が地域活性化に寄与し、美しい景観を作り出し顔の見える関係性を築いていくことを目的とした。	
事業で取り組んだ地域や社会の課題	
元来、日本の風土は年間を通して四季折々の暮らしの知恵や農仕事などの郷土教育に非常に向いている側面がある。しかし共働き世帯が多い昨今、土地を家族で管理することや手間のかかることを敬遠する世代が拡大し、文化に触れる機会や体験的教育は週末のレジャーと化してしまっており長くは続かない。家族が核化、内向きになっていく過程で、子どもたちはめいりいっばい遊べる場所が少なくなり、行き場に困っている親世代が多くいることが活動を通して見えた。ノイホーフ南埼玉では、各分野の専門家が交差しながら課題解決を試み、地域課題を家族ぐるみで支えていくためのコミュニティモデルとしてイベント型・オンライン・勉強会を開催し、住んでいる地域への愛着を持つことや関心を寄せることで、増加する耕作放棄地問題について考える機会となった。また農家さんとののかかわりの中で地域のゴミ問題についても学ぶことがたくさんあり、今後は地域資源をいかに循環させ活用していくかを含めた活動にしていくことが持続可能な地域社会へ発展するために必要だと感じた。	
取り組んだ事業の具体的な内容・実施結果	
田んぼの立ち上げイベントワークショップ：参加者20名、畑での農イベント：参加者15名、稲刈りイベント：参加者32名、養鶏イベント：参加者21名と、イベント型の活動が最も人気であり、親子連れ参加が多かった。中には家族で畑を借りて自分の家の分だけ作物を収穫するといったご家庭も参加者の中に多くいた。地域の自然保護に努める講師の講習では、参加者：16名で昔から地域保全にかかわっている年配の方の参加もあり、世代の広い交流が生まれた。自然養鶏を実施する農家さんによる養鶏イベントでは、田畑の手入れで出るごみをできる限り減らし、持続可能な社会に発展させるといった内容を聞くことができた。スタッフ研修会ではパーマカルチャーを実践する安曇野シャントクティに出向き、環境に負荷をかけない暮らしの工夫や農法を学ぶ時間となった。オンライン勉強会では秩父のこども園と連携し、教育的手法と自然の在り方について勉強させていただいた。「環境教育」はどこでも実践できることを学んだ。二回のスタッフ研修のためのミーティングは、アイデア出しや企画運営についての知識と準備を学んでもらい、イベント等の反省を踏まえて実践を積むための時間とした。	
事業実施により達成した成果の具体的な内容	
田んぼのワークショップについては企画を進める中で、横浜市にある研修農園の法人と繋がることができた。気候に左右されやすい農活動については、同じ農法で作っている他の田畑と情報共有することで、冷害対策や害虫対策を知ることができた。養鶏イベントについては、近隣で養鶏を実施したい参加者、広めたい講師のニーズが合致し、コミュニティ形成に至った。コミュニティに属している人が近況報告をしたり気軽に質問したりできる環境が整うことで、一人で実践する不安感をなくす結果に至った。自然講習については、かかわる人々の高齢化問題が背景にあり数年後の展望が立たない、といった状況の中で、私たちや親子参加者が同じ時間を共有し、今まで紡いできた保全方法や手入れの仕方を学ぶことで、世代交代の糸が繋がったとの声を聞くことができた。研修を受けた2名のスタッフは活動の宣伝方法や募集受付、企画提案などの経験を積み、自分たちの力で活動の運営をすることができるようになった。参加者とのコミュニケーションを取る重要さや、当日の配慮や準備リストなども考え、実践を積んだ。	

費用面での工夫
手入れに費用を要する農機具類などの使用を極力避け、昔ながらの手仕事を伝えることにより、農作への楽しさややりがいに触れるきっかけとなった。
最後の養鶏イベントのみ参加費を徴収する運びとしたが、参加費を設定するイベントとそうでないものを交ぜることにより、始めはそこまで意識していなかった参加者も、参加費を払ってでも来たい！と思ってもらえるように一つ一つのイベントを丁寧に作り上げた。
今回実践を踏まえたことで、地域に貢献する活動として、今後はクラウドファンディングなどの利用も考えてみたいという声があがった。
地域社会への還元
イベントの都度に顔を合わせられる、その日だけでない世代間交流が生まれ、特に年配の方はそれが安心感につながるようだった。手仕事などは年配の参加者の方の方が知見を持っていることがしばしばあり、講師だけでなく参加者も主体的に関わる目的にかなった活動になったと感じる。南埼玉のあたりには移住者が増え面白い活動を起こそう！という人々が近年集まっているのを感じている。そのため参加者が今度は企画者へ。企画者が勉強のため参加者へ。という循環が生まれ参加者数を集めるのが以前ほど苦勞しなくなったのを感じている。
今後どのように事業を継続し発展させるか
1, 活動の企画運営を担うことができる人材の育成(子育て世代の参加者が、子連れであっても安心して参加できる仕組みづくり)
研修スタッフはじめ参加者の中からもスタッフとして入りたい、というお声をいただいた。担う人材を引き続き増やしていく。
2, NPO法人の会員増加と活動の質向上による認定NPO法人化を目指し、より信頼できる団体となるよう発展させる。
今回の活動を通して会員登録者数が増え、年間会員として一緒に活動できる環境づくりを整えた。
3, 同じような活動を志す他団体のモデル事業となり、技術の伝達・指導を行っていくことで、南埼玉エリアの枠が拡大する。
活動に関心のある企業や自治体職員の見学もあり、ノイホーフとしての活動の認知度を向上させるよう今後もチラシ等で配布していく。

事業収支計算書

法人名 NPO法人環境教育ネットワークたねのもり

1 収入の部

(単位:円)

項目	予算額 A	決算額 B	増減額 C=B-A	備考
助成金	338,000	338,000	0	
自己資金	38,525	119,847	81,322	
活動実施による収入等	120,000	5,000	△ 115,000	
その他	0	0	0	
収入の部 合計	496,525	462,847	△ 33,678	

2 支出の部

(単位:円)

項目	予算額 A	決算額 B	増減額 C=B-A	備考
会場費	34,800	2,100	△ 32,700	
通信運搬費	0	0	0	
旅費交通費	27,785	57,826	30,041	
消耗品費	93,940	56,421	△ 37,519	
備品費	0	0	0	
委託費	0	0	0	
謝金	110,000	140,000	30,000	
人件費	230,000	206,500	△ 23,500	
その他	0	0	0	
支出の部 合計	496,525	462,847	△ 33,678	